

平成 30 年度研究推進計画に係る研修会（平成 30 年 4 月 12 日（木））
説明原稿

廿日市特別支援学校 研究部

これから研究部の研修会を始めます。

資料は、持参していただいた「平成 29 年度研究紀要」及び「広島県立廿日市特別支援学校版『学びの変革』アクション・プランについて」と、配付資料 2 部です。

配付資料の確認をします。「平成 30 年度研究推進計画」と「1 学年 1 授業実施スケジュール」です。

本日の研修会の内容ですが、

1. 「廿日市特別支援学校版『学びの変革』アクション・プラン」について
 2. 昨年度の研究の成果と課題，生活単元学習の授業づくりのポイントについて
 3. 今年度の研究推進計画について
- の流れで行います。

まず、本校の研究について説明します。

本校では、「廿日市特別支援学校版『学びの変革』アクション・プラン」を策定し、平成 28 年度の後期授業から指導略案に基づく授業改善に取り組んでいます。

昨年度は、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業づくりを、知的障害教育の中核をなす生活単元学習を通して行っていくこととし、「児童生徒の意欲，主体性を育てる授業づくり～廿特版『学びの変革』アクション・プランに基づく生活単元学習の授業改善（1 年次）」を研究テーマとして研究を行いました。

まず、最初に、本校版「学びの変革」アクション・プランについて説明します。

アクション・プランの資料を準備してください。

なお、説明では「アクション・プラン」と表現します。

1 ページを御覧ください。

「1 趣旨」に示しているとおり、平成 28 年度から実施している「アクション・プラン」について、平成 29 年 12 月に実施した教職員対象アンケート並びに平成 29 年度から実施の広島大学大学院に係る研究協力の知見等を踏まえた上で必要な修正を行い、授業改善に向けた取組の充実を図ることを目的としています。

「2 経緯」を御覧ください。

本校は、平成 28 年 10 月の後期授業から新指導略案による授業改善を進め、その成

果と課題を踏まえ、育成したい資質・能力「はつかいち」(は(働く力), つ(つくる), か(活用), い(意欲), ち(知識))を明確にした単元(題材)計画によるカリキュラム・マネジメント、指導略案による授業改善の取組を進めています。

平成 29 年 1 月には、アクション・プランの取組の成果と課題を把握するための 1 回目のアンケートを実施しました。

その結果を基に、本校の育成したい資質・能力「はつかいち」と次期学習指導要領の「学力の 3 要素」として示されている「知識及び技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体的に学習に取り組む態度」との関係を整理するとともに、単元(題材)計画及び指導略案の様式を変更し、平成 29 年度はこの新しい単元(題材)計画及び指導略案を活用して授業改善を進めてきました。

そして、平成 29 年 12 月には、アクション・プランに係る教職員対象の 2 回目のアンケートを実施して、アクション・プランの成果と課題を把握しました。

また、昨年度は、広島大学大学院に係る研究協力の一環として、各学部の単一障害学級及び重複障害学級の担任計 6 名からなる研究協力者を定めて、研究協力者ワーキングを実施してきました。

この研究協力者ワーキングは、現在までに 5 回実施され、その話し合いの中で、本校の全ての児童生徒に対応できるとともに、誰が見ても意味が分かり、実用度が高い内容を目指した「資質・能力段階表」等の資料を作成しました。

平成 29 年度の広島大学大学院に係る研究協力については、校内掲示板に掲載して周知してきたところですが、研究協力の概要については配付資料の資料 43 ページに、研究協力者ワーキングの内容については、44 ページから 47 ページに掲載していますので御確認ください。

以上のように、平成 28 年度後期からスタートした本校のアクション・プランの取組は、教職員対象のアンケート結果や広島大学大学院に係る研究協力の知見等を踏まえて改善を進めてきています。

平成 30 年度の授業改善の取組がスムーズなスタートを切れるよう、改善方策について、説明します。

昨年度から勤務している先生につきましては、昨年度末に、学びの変革担当者会が行った説明と重なる部分があるかと思いますが、新しく赴任された先生もおられますので、御理解ください。

1 ページの「3 実施状況」を御覧ください。

平成 29 年 12 月のアンケート結果から、次の成果と課題が明らかになってきました。成果と課題は、(1) カリキュラム・マネジメントについて、と (2) 授業改善について の 2 点から整理しています。

まず、(1) カリキュラム・マネジメントについてです。単元(題材)計画を使用することにより、「単元づくりが容易になった」、「次時の単元の改善が図られた」、「年間指導計画の改善が図られた」等の設問に「当てはまる」及び「概ね当てはまる」と回答した割合が 8 割あり、カリキュラム・マネジメントが概ね順調に推移していることが分かりました。

一方、課題としては、単元(題材)計画の様式について、「カリキュラム・マネジメント(改善)」欄の「直後の単元(題材)の改善内容」、「関連する単元(題材)の改善内容」が書きづらいと感じている教職員が多いということが分かりました。

次に、(2) 授業改善についてです。指導略案を使用することにより、75.7%の教職員が児童生徒の変容があったと感じています。

指導略案を使用することにより、特に意識して授業づくりをするようになった内容としては「授業展開」、「主体性を引き出す指導・支援」、「目標設定及び提示の仕方」がありました。

課題としては、育成したい資質・能力「はつかいち」を選択する際に、難しさや意味が分かりにくいと感じている教職員が多くいることが分かりました。特に、「か(活用)」、「つ(つくる)」の順で、その意見が多くありました。

育成したい資質・能力「はつかいち」が何に該当するのか悩んだり、分け方が難しいと感じたりするという意見が多くあるため、全職員が共通認識をもち授業改善を進めることができるように、「はつかいち」を構造的に示す必要があることも分かりました。

育成したい資質・能力「はつかいち」が具体的に何を指すのかということの整理が不十分であったため、このような結果になったものと考えています。

片岡先生の広島大学大学院派遣研修の研究に係る 6 名の研究協力者 神岡先生、大呑先生、丸山先生、竹中先生、沢井先生で協議を重ねて、育成したい資質・能力「はつかいち」段階表を検討してきました。

この研究成果の一部を廿日市特支に還元することにより、本校の授業改善の取組を更に充実させていきたいと考えています。

以上のことを踏まえ、平成 30 年度からは、次の点を改善して取り組んでいきます。
まずは、全教職員が目指す児童生徒の姿、育成したい資質・能力に対して共通認識を持つため、目指す児童生徒の姿、育成したい資質・能力を明確化します。

そのため、①アンケート結果に基づき「はつかいち」の項目を見直すこと、②研究協力者により作成した 2 ページにある「目指す児童生徒の姿」及び 3 ページにある「育成したい資質・能力『はつかいち』段階表」を活用すること、③「育成したい資質・能力『はつかいち』段階表」に基づき、単元（題材）計画及び指導略案の様式等を改善することとしました。

以上の改善を図り、アクション・プランを充実させていきます。

「目指す児童・生徒の姿」、「資質能力段階表」の説明をします。

「廿日市特別支援学校版『学びの変革』アクション・プランについて」の資料 2・3 ページを御覧ください。

昨年度、本校においては、「学力の 3 要素」に、学校独自に設定した「児童生徒につけたい資質・能力」の観点を位置づけ、研究を進めてきました。

「児童生徒に育成したい資質・能力」の各観点到 5 つの段階を設定するに当たり、小学部段階から高等部卒業までをイメージし、協議・検討してきたところですが、児童生徒の生活年齢にこだわらず、児童生徒の実態又は単元の展開に応じて柔軟に段階を捉えていくことが適当であるとの意見で一致しました。

「資質・能力段階表」の各資質能力の各段階の内容について、説明をします。

【ひとつずつ説明を行う】

次に、「目指す児童生徒の姿」について説明します。

研究協力者の協議により生成したカテゴリーの関連と段階を踏まえた図を作成しました。

「目指す姿」を 4 段階で捉え、最終目標は、「自分の生活を豊かにする」となります。

そこに向かっていくために、様々な経験を積み重ねることにより、見通しをもつことができるようになる、そして、興味、好きなことを見つけ、増やしていく経験をとおして、コミュニケーションの力を身につけるといふ、私たち教師が大切にしたい視点を盛り込みました。

この図についても段階を設けて作成していますが、柔軟に捉えていくこととします。

「目指す児童・生徒の姿」、「資質・能力段階表」は、段階の幅が広いという意見をいただくことがありますが、幅広い児童生徒実態がありますので、先生方の裁量を広く取ることができるようにするため、このようにしています。これは、発達段階表ではなく、あくまで指標と考えてください。

児童・生徒実態及び単元の内容において、学部に関わらず、高等部において、1段階を狙う場合、小学部で5段階を狙う場合があると思います。各段階を先生方が担当している児童生徒だったらという捉えをもっていただけたらと思います。

新しい単元（題材）に入る前に単元（題材）計画を作成する際に、「目指す児童・生徒の姿」でその単元で最終的に目指す児童生徒の姿をイメージし、その姿を見るために、「資質・能力段階表」で私たちがその単元（題材）で児童生徒に付けたい力について考えます。

このような流れで活用してください。

「目指す児童生徒の姿」、「資質・能力段階表」について御質問、分からないこと等がありましたら、お願いします。

（質疑応答）

続きまして、具体的な様式等の変更について説明します。変更点は8点あります。

5ページの修正前と4ページの修正後を御確認ください。

1点目は、アクション・プランの実施フローに、「育成したい資質・能力段階表」を明記することです。

7ページの修正前と6ページの修正後を御確認ください。

2点目は、単元（題材）計画に「育成したい資質・能力段階表」を明記することです。

3点目は、単元（題材）計画の「3 カリキュラム・マネジメント」の改善の欄を「次年度の年間指導計画の改善内容」の項目のみとすることです。

4点目は、「はつかいち」と「学力の3要素」の関係を、6ページに示すように変更することです。

7ページに示すとおり、現行のものは、「は（働く力）」が、「学力の3要素」の「知識及び技能」、「思考力・判断力・表現力等」の両方にかかっていましたが、改善策のように「思考力・判断力・表現力等」に入れます。こうすることにより、学習指導要

領「学力の3要素」の趣旨と本校の育成したい資質・能力「はつかいち」の整合性を図ることができ、「はつかいち」の力が意味する内容も明確にすることができます。

5点目は、単元（題材）計画に基づくカリキュラム・マネジメントを円滑に行うために、「2 指導計画」の内容を「計画」と「実績」に分けて記載することです。

6点目は、アンケートにおいて先生方が記入する際に難しさを感じていた「つ（つくる）」を「つ（つなぐ）」に変更することです。

「つ（つなぐ）」は、主体的に学習に取り組む態度として必要な人との関係を意味しています。一緒に物事を行う「共同」、力や心を合わせて物事を行う「協同」、同じ目的のために対等の立場で協力して共に働く「協働」、同じ読み方ですが、内容に違いがあります。それら全てを含めて「つ（つなぐ）」に入れます。こうすることで、「つ」の捉えが分かりにくかった部分の解決につなげていきます。

8 ページ、9 ページを御覧ください。

7点目は、指導略案の授業評価欄を削除することです。授業評価欄はなくなりましたが、各授業の評価を行う必要がないということではなく、これまでと同様に、単元（題材）計画を活用して授業改善を図る必要があるということを御理解ください。

8 ページを御覧ください。

8点目は、指導略案の学習活動「はつかいち」に「は」「つ」「か」「い」「ち」を記入することです。これまで①～⑤を記入することとしていましたが、より育成したい資質・能力を意識することができるよう、「は」「つ」「か」「い」「ち」の平仮名を記入することとします。

以上が様式の変更点となります。

次に、実際の記入例を見ながら、記入上の留意点等を説明します。

10 ページ、11 ページを御覧ください。

単元（題材）計画作成の仕方について説明します。

- ①番目に、単元名、時数、単元目標を年間指導計画に基づいて記入します。
- ②番目に、この単元で「育成したい資質・能力」の□を■にチェックします。

「育成したい資質・能力」については、小学部段階から高等部卒業をイメージして、第1段階から第5段階まで設定していますが、生活年齢にこだわらず、児童生徒の実態又は単元の展開に応じて柔軟に段階を捉えていく必要があります。

これは、研究協力者の協議において、廿日市特別支援学校に在籍する全ての児童生徒に対応できるもの、誰が見ても意味が分かる内容にしたい、実用度の高い内容にしたいということを狙いとして作成したものです。

記入に当たっては、その単元（題材）で育成したい資質・能力の□を■にチェックしますが、関連するものがない場合は、□のままでもよいこととします。

③番目に、評価規^{のりじゅん}準を記入します。記入に当たっては、育成したい資質・能力「はつかいち」の内容を明確にした上で、「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」「主体的に学習に取り組む態度」の枠に具体的な表現で評価規準を記入します。

その際に、規準は、学級全体を想定して記入します。3つの力がありますが、1つの力に1つ以上の規準を記入してください。

知識及び技能、思考力・判断力・表現力等は「◇◇について△△を理解している。」「◇◇の技能を身に付けている。」「◇◇について考えたことを表現している。」、主体的に学習に取り組む態度は「すすんで◇◇しようとしている。」「◇◇を生かそうとしている。」等、具体的に記入してください。

④番目に、指導計画の「計画」を記入します。④番までを単元が始まるまでに記入してください。

授業を進める中で、計画していたことを実際に行わなかったときは、単元終了時等に取り消し線を引く「見え消し」をします。

追加したものには「下線」を引いてください。この作業をすることで、事前・事後の実績を記録として残すことができ、次年度の年間指導計画を作成する際のカリキュラム・マネジメントを行うことができ、授業を行う際の資料にもなります。

単元終了後に、⑤番目の実績を記入してください。その後に「カリキュラム・マネジメント」を記入します。計画したことを実施できなかったことや、追加した理由をカリキュラム・マネジメント欄に記入することにより、年間指導計画を改善する根拠となります。

単元終了後、実績、カリキュラム・マネジメント欄を記入し、2週間以内に各学部フォルダへデータを入れてください。

12 ページの指導略案の記入例を御覧ください。指導略案の記入上の留意点について

説明します。

単元（題材）目標は、年間指導計画に基づいて記入してください。評価規準は単元計画で記入したものを転記してください。

学習活動については、すべてに渡り、詳細に記入する必要はなく、御覧のとおり、簡素化を図っていただきたいと思います。

具体的には、学習活動は授業の流れが分かるように項目を記入してください。

指導・支援、評価の観点も、本時の目標になっている学習活動のみ記入してください。

また、個々の目標と評価の観点を対応させて記述してください。

文末は「～できたか。」等にしてください。個々の目標を達成するために必要な指導・支援の内容は、具体的に記入してください。

評価を行う部分に、「はつかいち」の平仮名を記入してください。

最後に、単元（題材）計画、指導略案ともに、作成する際は、各自のデスクトップ等で作成するのではなく、各学部のフォルダ内でデータを作成してください。そして、各自でショートカットをデスクトップに貼り付けるなどして作成をしてください。

これは、単元（題材）計画や指導略案について、紙媒体で提出しない代わりに、パソコン上で内容を確認できたり、保管することで次年度に活用したりすることができるためです。必ず入れてください。よろしくお願いいたします。

学びの変革担当者会では、学校全体で授業改善を進めていくため、平成 30 年度についても、アンケート等によりアクション・プランの実施状況や皆さんの意見を把握した上で、必要な改善をしていく予定ですので、御理解と御協力をお願いします。

アクション・プランに関する説明は以上です。

御質問等、ありましたらお願いします。

（質疑応答）

続いて、昨年度（平成 29 年度）の研究の概要と、成果と課題についてお話しします。
研究紀要 1 ページ目を御覧ください。

昨年度（平成 29 年度）は、縦 3 の研究の進め方に示してあるとおり、仮説、検証型で研究を進めることとしました。

3 ページ目を御覧ください。

「全教職員による授業改善」を目指し、研究体制を整えました。

1 点目は、研究授業を担当する学級を 5 学級とし、校内授業研究及び公開授業研究の授業者を同一としました。

2 点目は、全教職員は研究授業をする 5 学級のいずれかに所属することとし、年間を通じて同じメンバーで研究に携わることができるようにしました。

3 点目は、研究仮説と検証方法を各学部の教職員で決定するための研修会を設定しました。6 ページ、7 ページに仮説と検証方法決定までのプロセスを掲載しています。

教職員全員で生活単元学習の授業で目指す児童生徒の姿、授業づくりについて考える機会となりました。

4 点目は、研究授業に向けて、単元づくりの段階から各グループで検討を行いました。8 ページ目に、夏期公開講座でのグループワークの内容、単元づくり検討会について掲載しています。

単元づくり検討会は、全員で授業づくり、授業改善を行うための新しい取組です。

授業者が作成した単元計画を基にグループ協議を行い、単元計画をリメイクし、研究授業に向けて授業改善を図りました。校内授業研究に向けては 1 回、公開授業研究に向けては 2 回行いました。単元づくり検討会については、今年度も実施する予定です。

5 点目は、全学級が研究テーマに沿って行った授業改善の取組の成果と課題をまとめ、「授業実践集」としてまとめることができました。

昨年度、研究テーマに沿って実施した研修会、夏期公開講座、授業研究より、他県先行研究を知り、また、そこから導き出した授業づくりポイント等を本日の配布資料（ ）ページに掲載していますので、後で御確認いただいで、今後の生活単元学習の授業づくりの参考にさせていただければと考えます。

昨年度の研究の成果と課題です。

16 ページと 17 ページを御覧ください。

各学部の教職員で作成した仮説に基づき、目指す児童生徒の姿や育成したい資質・能力を明確にしながら、授業づくりに取り組んだ結果、各学部の教職員で作成した仮説に基づき、目指す児童生徒の姿や育成したい資質・能力を明確にしながら、授業づくりに取り組むことができました。その結果、学習指導案づくりや実際の授業場面で、どのような学習内容にするのか、どのような活動を取り入れるのかを考えた授業づく

りへの意識が高まり、授業改善が進んだと考えられます。生活単元学習の授業改善に係るアンケートや公開研究会終了後の教職員対象のアンケートの結果にも、その成果は表れており、教職員の授業改善に対する意識が高まり、児童生徒の成長・発達へと繋がる変容として現れました。

一方、それに続く評価・検証については、検証方法が曖昧で仮説が達成できたかどうか明確ではないこと、単元で身に付けた力を評価するためには、長いスパンで評価する視点が必要であること、評価・検証されたものについての共有ができていないこと等の課題が明らかになりました。

グループを固定することにより、研究対象となった授業の単元づくりからの授業改善の流れに、年間を通して携わることとなり、研修を深めることができました。

特に、研究仮説及び検証方法の決定にも全教職員が関わる状況を設定したことにより、全教職員が研究を推進している一員としての自覚をもって研究に携わるようになる等、授業改善に対する意識の高まりを見ることができたと考えます。

グループワークの際には、1グループ4、5名でワークシートを囲みながら意見を出し合う場面を設定することにより、誰もが発言しやすくなったり、共通に知っている児童生徒を思い浮かべながら話がしやすくなったりする等の効果が得られ、教職経験の長短に関わらず、活発な意見交換が行われるようになりました。

また、以上の成果は、次の公開研究会後の教職員対象のアンケート結果にも表れています。

以上が、昨年度の研究の概要及び成果と課題です。

何か、御質問等ありましたら、お願いします。

(質疑応答)

最後に、今年度の研究推進について、研究推進計画に沿って説明します。

お手元に、本日の配布資料を準備してください。

1 ページ目を御覧ください。

今年度の研究テーマは、「児童生徒の意欲，主体性を育てる授業づくり～廿特版「学びの変革」アクション・プランに基づく生活単元学習の授業改善（二年次）～」です。

昨年度は、先ほど説明しましたとおり、各学部の教職員で作成した仮説に基づき、目指す児童生徒の姿を明確にしながら、授業づくりに取り組みました。

成果として、教職員の授業改善に対する意識が高まり、児童生徒の成長・発達へとつながる変容を実感することができたと考えています。

しかし、課題として、児童生徒の変容を具体的な指標で評価ができなかったことが挙げられます。

そこで、今年度は、アクション・プランに基づく授業改善を進めるために、次に説明します5点に取り組みます。

1 ページ目に示しています。（1）～（5）に沿って、説明をします。

1 点目、全校共通の仮説を基に、各学部の実態に合わせた研究仮説を設定します。

1 ページ目のアを御覧ください。

共通の仮説を基に、各学部で、児童生徒実態に応じた仮説を考え、設定します。

2 点目、昨年度末に改善した単元（題材）計画を活用し、育成したい資質・能力を明確にして設定した目標の達成状況を、単元（題材）計画の「3 カリキュラム・マネジメント」の記述を分析してまとめます。

3 点目、アクション・プランに基づく授業改善シートを作成し、個々の指導・支援の適切さを、授業改善シートによる自己評価、他者評価から捉え、具体的な指標で評価します。

授業改善シートとは、授業研究等を行う際に、参観者が評価を記入するシートです。現在、研究部で作成しています。

4 点目、単元（題材）計画及び指導略案による1学年1授業を実施するとともに、一人年間1回以上の授業観察を行います。

1 学年1 授業は、今年度の新しい取組です。

昨年度は、公開授業研究会の授業者が、校内授業研究も担当しました。これは、公開授業研究会に向けて、校内授業研究で得られた課題を基に授業改善を行うため、このような形をとりました。

授業については、小学部2学級、中学部1学級、高等部2学級が担当しました。

また、昨年度は、全教職員で授業改善に取り組むため、新しい取組として、単元づくり検討会を実施し、全員で、所属学部の校内授業研究及び公開授業研究の授業づくりに参加する体制をとりました。

そして、今年度は、昨年度の取組の成果を基に、規模を小学部から、高等部の各学年全12学級で、授業研究を行う、1学年1授業を実施し、公開授業研究に向けて授業改善を図ります。

1学年1授業及びこの後説明します、公開授業研究会の授業を担当する学級及び授業者について、発表します。

【読み上げる】

なお、公開授業研究会の授業を担当される先生につきましては、1学年1授業も担当していただきます。

5月～9月の単元で授業を実施し、学年の教職員が授業観察を行います。多くの教職員が授業観察できるよう時間割を変更して体制を整えます。

1学年1授業の実施スケジュールについて説明します。

5ページ目を御覧ください。

【資料に沿って説明】

続いて、公開授業研究について説明します。

資料3ページを御覧ください。

日時は12月15日 土曜日です。

昨年度より、本校では、多くの方に本校の授業実践及び教育研究を知っていただくため、土曜開催としています。

アドバイザーを招聘して、授業研究を実施します。

小学部単一障害学級は、広島文教女子大学 人間科学部 人間福祉学科の 李木 明德教授、小学部重複障害学級及び中学部単一障害学級は、特別支援教育課及び教育センターより指導主事を、高等部単一障害学級は、広島大学大学院教育学研究科特別支援教育学講座の竹林地毅准教授を招聘する方向で調整しています。

続いて、今年度の研究スケジュールについて説明します。

2ページ目、イに全体のスケジュールを示しています。

なお、公開授業研究会の授業者は1学年1授業も担当することとします。

公開授業研究会実施までの流れについては、2ページ目(4)のウを御覧ください。
1学年1授業を経て、公開授業研究に向けた単元づくり検討会、学習指導案検討会、
授業シミュレーションを実施し、公開授業研究を実施します。

公開授業研究会を担当しない学級においては、単元づくり検討会、1学年1授業、
授業まとめ等の成果と課題を踏まえ、単元(題材)計画及び指導略案による授業改善
に努め、得られた成果と課題をまとめます。公開授業研究会で、ポスター発表を行い、
「授業実践集」としてまとめます。

公開授業研究会当日の流れは、3ページ目(6)に示していますので、御確認ください。

【読み上げる】

この日は、児童生徒は13:30下校とします。

5点目、単元(題材)計画について、アンケートを取り、より使いやすい様式に改善します。

その他、各研究大会への参加と発表、専門職との連携、研究便りの発行をします。

今年度の研究大会への参加、発表としては、12月に予定されています、広島県特別
支援学校教育研究大会での研究発表があります。

専門職の連携として、研究部では、専門職協議会を開催します。主として、自立活
動についての目標、指導内容について、作業療法士、理学療法士から助言を受けます。
また、言語聴覚士の指導の集約調整を行います。

研究便りは、昨年度より年4回発行し、ホームページに掲載します。今年度の研究
テーマ及びテーマに沿った研修会、1学年1授業、公開授業研究会等の取組を公開す
るとともに、専門職との連携についても掲載し、本校教職員で成果を共有するととも
に、保護者及び関係者に情報発信をしていきます。

研究のまとめとして、平成30年度研究紀要、平成31年度研究推進計画を作成しま
す。

最後に、平成30年度研究部様式について、説明します。

4ページ目、5に記載しています。

学習指導案につきましては、ページ設定、余白、フォント、ポイント、文頭の揃え方、各内容の記入時のポイントを示したものを配付していますので、細案を作成する際に、参考にしてください。

その他の様式については、後で御確認いただけたらと思います。

分からないことがあるとき等は、研究部に聞いてください。

なお、今年度は、各学年に1名、研究部員がいます。

何か、御質問等はございませんか。

今年度も、全教職員で授業改善に取り組む方向で研究を進めていきたいと考えます。

また、単元づくり検討会を始めとする研修会の進め方等、研究授業を担当される先生の意向を多く取り入れ、やって良かったと感じていただけるように進めていきたいと考えています。

以上で、研修会を終わります。

ありがとうございました。